

被害者尋問事項

検察官からの尋問

裁判官：それでは、次に佐藤芽有里さんの証人尋問を始めます。佐藤芽有里さんは、証言席に座って下さい。検察官、どうぞ。

検察官：あなたは、今年の4月5日に、刃物で刺されて怪我をするという被害に遭いましたね。

芽有里：はい。

検察官：それでは、これから、そのときの話を聞いていきます。あなたは、その日の午後10時ころ、何をしていましたか。

芽有里：その日は、午後6時くらいに江勢崎から前崎に帰ろうとしたら上川まで寝過ごしてしまい、上川から折り返した高橋線が10時くらいにやっと前崎駅に着いたので、駅から自宅に歩いて帰るところでした。

検察官：あなたは歩いているときに襲われたわけですが、そのとき何があったんですか。

芽有里：私が、駅の北口から出て、線路沿いを自宅の方に向かって歩いていたときに、いきなり私の前の方から人が飛び出して私の方に向かってきました。私は、私のファンが出待ちをされていて、愛の告白をしてくるのかと思いました。

検察官：私のファンとは、どういうことですか？

芽有里：私、GBK48っていうネットアイドルグループの一員で、熱狂的なファンが沢山いるんです。

検察官：向かってきた人はその後どうしたんですか。

芽有里：その人は、そのままドンっと私にぶつかってきました。このとき、私は、左胸の辺りがきゅんとしたので、運命の出会いかもしれないと思ったのですが、猛烈なアタックだったので後ろによろめいてしまいました。

検察官：左胸がきゅんとしたというのはどういうことですか。

芽有里：なんていうのかな、恋に落ちたときに感じる胸が締めつけられるような、あのせつない苦しさを感じました。

検察官：具体的に言うと、左胸はどうなっていたんですか。

芽有里：後で気付いたんですが、左胸のポケットに入れていた私のアイホンちゃんが真っ二つに割れていて泣きそうになりました。

検察官：アイホンちゃんとは何ですか。

芽有里：スマートホンのことです。

検察官：なぜそのスマートホンは割れていたんですか。

芽有里：向かってきた人が私にぶつかった際に、包丁で刺したから割れたんだと思います。

検察官：あなたの体のどの辺りに傷がありましたか。

弁護人：異議あり！！証人は、傷があったとは述べていません！！

裁判官：検察官ご意見は。

検察官：質問を変えます。

あなたはぶつかったときに、負傷しなかったんですか。

芽有里：胸に少し切り傷がありました。きっとアイホンちゃんが私の代わりに犠牲になってくれたんだと思います(手で顔を覆ってシクシク泣く)。

検察官：つまり、左胸を犯人に刺されたけれども、左胸ポケットに入ってたスマートホンにちょうど包丁が当たったため、あなたは深い傷を負わずに済んだということですか。

芽有里：はい、そのとおりです。

検察官：では、あなたがぶつかられてよろめいた後、あなたはどうしたんですか。

芽有里：包丁が見えたので、私と無理心中をするために私を刺したんだと思って、包丁をとっさに左手でつかみました。

検察官：包丁をつかんだ後、どうしましたか。

芽有里：犯人を両手で押し返しました。そこまで強引なメンズはちよっ

と・・・。

検察官：左手は大丈夫だったんですか。

芽有里：その時は気付かなかったんですが、後で見たら左手の小指が切れて、
なんか血が出ていました。

検察官：今回犯人に襲われる前に、左手に切り傷や出血はありましたか。

芽有里：私はサメ肌ですが、なかったです。

検察官：それでは、あなたのサメ肌の左手の傷は、包丁をつかんだときにで
きた傷ということですね。

芽有里：そうだと思います。

検察官：あなたが犯人の包丁を左手でつかんだ後どうなりましたか。

芽有里：犯人を押し返したんですが、その時同時に、やっぱり無理心中は嫌
だと思ったので白馬の王子を呼ぼうと悲鳴をあげました。

検察官：あなたが悲鳴をあげると犯人はどうしましたか。

芽有里：犯人は背を向けて逃げ出し、すぐに見えなくなってしまいました。
私は、私への愛情はその程度かと少しがっかりしました。

検察官：あなたは犯人の顔を見ましたか。

芽有里：見てません。

検察官：では、その犯人の特徴は覚えていますか。

芽有里：身長が170cm位の結構ガタイの良い男でした。はっきり言って
私の好きな体つきです。

検察官：犯人のその他の特徴で覚えていることはありますか。

芽有里：そういえば、犯人はNICEのパーカーを着ていました。

検察官：色は覚えていますか。

芽有里：パーカーはグレーで、NICEのロゴは黒でした。

検察官：供述内容を明確にするためにパーカーを示します。

(パーカーを示しながら)

そのパーカーは、これと同じものですか。

芽有里：はい、間違いありません。

検察官：どうして断言できるのですか。

芽有里：犯人を押し返したときに、N I C Eのロゴが見えました。あと、前に私が片思いしていたメンズがN I C E好きだったんです。そのメンズは、足が速くて、絵がうまくて、あと、えーと。

検察官：とにかく、N I C Eのロゴはよく知っていたということですね。

芽有里：そうなんです（はあと）。

検察官：今回犯人に襲われて、あなたはどのような怪我をしましたか。

芽有里：胸と左手に包丁で切られた怪我をしました。

検察官：被告人の処罰について、望むことはありますか。

芽有里：怪我もしたしアイポンちゃんも壊されたし、ほんとに頭来てるんで、すっごく重くしてください。

検察官：以上です。

反対尋問

裁判官：弁護人、反対尋問をどうぞ。

弁護人：では、弁護人から証人に質問をさせていただきます。あなたは被告人を知っていましたか。

芽有里：いえ、知りません。たぶん隠れファンです。

弁護人：あなたは前崎駅の北口付近で襲われたと証言しましたが、あの辺りは街灯があまりなく、暗い感じですよ。

芽有里：そうですね、明るくはないと思います。

弁護人：そんな暗い場所で、あなたはどのようにして犯人の凶器が包丁だとわかったんですか。

芽有里：暗くても、近かったので包丁だとは分かりました。

弁護人：暗かったのにN I C Eのパーカーだということも分かったのですか。

芽有里：間近でN I C Eのロゴを見ているし、私が片思いしていたメンズも着ていたので間違っているはずはありません。

弁護人：N I C Eの文字は見えていたのに、顔は見えてないのですか。

芽有里：回りはあまり明るくなかったのと、犯人はフードをかぶっていたので、顔がよく分からなかったのです。

弁護人：犯人が飛び出してきてから、犯人が逃げるまでどのくらいの時間でしたか。

芽有里：あっという間の出会い・・・そして別れでした。

弁護人：あっという間の出来事だったのに、あなたはどのようにして犯人の身長が170cm位とかガタイが良いとか言い切れるのですか。

芽有里：私は、犯人の後ろ姿を見て、私の身長より少し高いと思ったからです。

弁護人：遠くに逃げていく犯人を自分の身長と比べることができますか。

芽有里：だいたい分かります。

弁護人：あなたの視力はいくつですか。

芽有里：その日は、グレーのカラーコンタクトを付けていたので両目とも1.0位だと思います。

弁護人：犯人は、あそこに座っている被告人と似ていますか。

検察官：異議あり。弁護人は証人に意見を求めています。

裁判官：弁護人、ご意見は。

弁護人：過去に証人が経験した事実に基づいた質問です。

裁判官：異議を棄却します。

芽有里：似てると思います。

弁護人：以上です。

補充尋問

裁判官：犯人が包丁を落としたのは分かりましたか。

芽有里：いいえ、気付きませんでした。

裁判官：あなたが襲われた場所から一番近い街灯は、襲われた位置からどのくらい離れていましたか。

芽有里：10mくらいです。

裁判官：犯人に襲われて悲鳴をあげた後、あなたはどうしましたか。

芽有里：近くのファーストバーガーへ逃げ込みました。

裁判官：以上で尋問を終わります。証人は傍聴席に戻ってください。